

新湯治セミナー 参加報告

第1回 平成30年12月5日(水)

第2回 平成31年1月25日(金)

主旨

環境省主催 チーム新湯治によるセミナー

温泉地活性化のために取り組み

テーマごとに講師による講演と情報交換、交流会

第1回目 温泉地の現在の報告

草津温泉 中澤敬氏

温泉地の枠を超えた西洋型リゾートの温泉地

別府鉄輪温泉 橋本栄子氏

新たな経営感覚で宿から街への広がり、特に空き旅館などの活用を頼まれている実情

観音温泉 鈴木和枝氏による講演

父親の代からの温泉地を発展させている。

第2回 温泉地の再生

東山温泉 くつろぎ宿 代表取締役社長 深田智之氏

3旅館一体での再生

阿寒湖温泉 釧路市産業振興部阿寒港観光振興課 課長 秋葉薫氏

阿寒湖でのマスタープラン作りとその実践に基づくまちづくり、温泉地活性化について

考察

- 1、新たな経営感覚の取り組みが成功事例となっている。
- 2、宿から街への広がりには是非実現したい。
- 3、西洋型温泉リゾートを視野に入れた取り組みは今後の参考になる。

新・湯治。セミナー

平成 30 年度に開催するセミナー

環境省では、今年度「温泉地の滞在を改めて考える」をテーマに 3 回のセミナーを開催します。

第 1 回 温泉地でのイマドキの湯治を考える（12 月 5 日（水））

第 2 回 温泉地を『リフレッシュできる環境』に再生する（1 月 25 日（金））

第 3 回 （仮）温泉地と企業の連携（2 月下旬～3 月上旬）

第 1 回 温泉地でのイマドキの湯治を考える

●日時 : 平成 30 年 12 月 5 日（水）13:30～16:30（3 時間）

●場所 : 日本交通公社ビル

●プログラム : 1.開会挨拶

2.講師紹介

3.温泉地での過ごし方～全国各地の新・湯治の動き

4.イマドキの湯治への展開

事例 1.温泉地全体での湯治

草津温泉の新・湯治について

講師：草津温泉観光協会 会長 中澤敬 様

事例 2.宿からまちへの湯治

柳屋のこと 鉄輪のこと

講師：サリーガーデンの宿 湯治柳屋 代表取締役 橋本栄子 様

事例 3.宿での湯治

観音温泉の湯治

講師：滝野川自動車・観音温泉 代表取締役社長 鈴木和江 様

5.意見交換

6.閉会挨拶

●備考 : 終了後には、同会場で交流会を開催します。

また、会場ビル 1 階および地下 1 階には、チーム員の方の活動を紹介する

スペースを設置しています。是非ご覧ください。

講師プロフィール

草津温泉観光協会 会長 中澤敬 様

1949 年、群馬県吾妻郡草津町生まれ。立教大学社会学部観光学科卒。卒業後はスイスへ渡り、スイスホテル協会設立のローザヌホテルスクールを卒業、ジュネーブでホテル業務に携わる。1978 年に帰国し、家業のリゾートホテル中沢ヴィレッジを継ぐ。2002 年～2010 年、群馬県吾妻郡草津町長に就任。草津温泉観光協会会長、日本温泉協会理事、観光庁「観光カリスマ」等の要職を務める。

サリーガーデンの宿 湯治柳屋 代表取締役 橋本栄子 様

2008 年、趣味のケーキ作りが高じてシフォンケーキ店「サリーガーデン」を始める。現在は、ケーキショップにカフェ、ランチ専門店「Kitchen Sally」、ギャラリーを併設する複合店舗となる。2014 年 1 月、別府市鉄輪温泉にある宿屋「サカエ家」を引き継ぎ、「湯治柳屋」を開業。アート・イート・リトリートをテーマとする鉄輪カレッジ代表。

滝野川自動車・観音温泉 代表取締役社長 鈴木和江 様

静岡県下田市横川にある観音温泉二代目社長。1972 年開業の『伊豆奥下田 飲泉自家源泉かけ流しの宿 観音温泉』に 1976 年より運営に携る。1988 年に代表取締役社長に就任。温泉水を全ての調理に使用するほか、温泉水を使った化粧品や純米酒づくり、温泉を利用したハウス野菜の栽培など、温泉を利活用して多角的な事業を展開。

配布資料

本プログラム

参加者一覧

チーム員名簿（簡易版）

1. 温泉地での過ごし方～全国各地の新・湯治の動き
2. 草津温泉の新・湯治について
3. 柳屋のこと 鉄輪のこと
4. 観音温泉の湯治
5. 第 2 回新・湯治セミナー案内
6. アンケート

「チーム 新・湯治」運営事務局【環境省温泉地保護利用推進室】

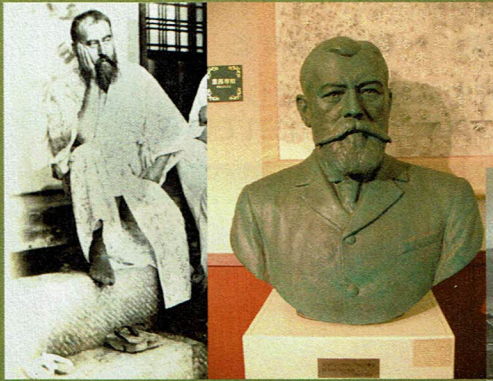
（平成 30 年度運営委託事業者：公益財団法人日本交通公社 チーム新・湯治係〔後藤・門脇・吉澤・安谷〕）

〒107-0062 東京都港区南青山 2-7-29 日本交通公社ビル

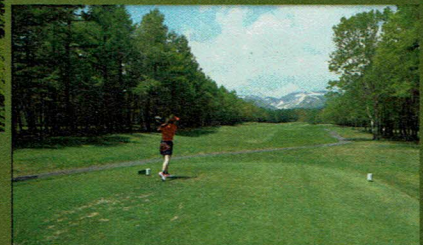
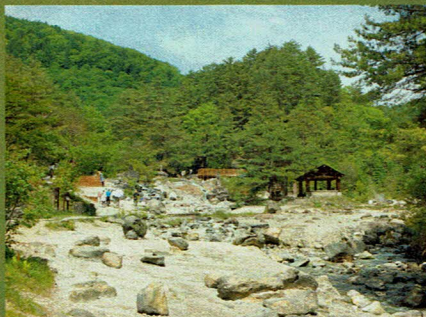
TEL : 03-5770-8440 FAX : 03-5770-8359 E-mail : shintoji@jtb.or.jp [運営事務局]

shintoji-seminar@jtb.or.jp [セミナー申込]

ベルツ博士による西洋の考え方



湯の街草津と高原リゾート草津





すじ湯の復活と管理

維持管理ができなくなり閉じたジモ泉“すじ湯”を復活
全国からサポーターを募集
”My温泉もちませんか”

鉄輪のドレスコードは“浴衣”

組合宿の浴衣で来れば無料で
すじ湯に入れる。

カラコロ カラコロ

“下駄の音”が響くまちに



湯めぐり・蒸し湯のおすすめ

鉄輪女将さん似顔絵プロジェクト

女将さんの美しさと元気さが
鉄輪温泉の湯の効能を証明！

鉄輪の記憶をつなぐ

昭和の大繁盛を知る方々への
聞き取りで、賑わう鉄輪の姿
を思い描く。

現 鉄 状 輪 と の 課 題



鉄輪の現状と課題の整理

- ・ 宿泊施設の老朽化
- ・ 経営者の高齢化
- ・ 飲食店の不足
- ・ 長期滞在のための魅力不足

現状の主なニーズ

- ・ 湯治しながら仕事がしたい
- ・ ビジネス仕様の個室が欲しい
- ・ 湯治中も中食がしたい
- ・ 客同士や地元と交流したい

空家の改装

街の賑わいを取り戻すため、
空家を改装して復活

- ・ カフェ&ギャラリー
- ・ 客室
- ・ 地獄蒸し惣菜と弁当の店
- ・ フリースペース
- ・ 蕎麦屋（12月末オープン）

近隣への影響



奥伊豆で出会う、至極の温泉宿

極上の源泉が待つ、 秘湯「観音温泉」



設立年月日 昭和25年3月22日
本社所在地 東京都目黒区東山
従業員数 150名
事業内容 ホテル・旅館企画運営
飲料・化粧品製造販売
旅行代理業 公認自動車教習所
リース業 不動産賃貸業 等

滝野川自動車株式会社 代表取締役社長

鈴木 和江



玄関にお祀りしてある観音像。温泉掘削中に観音坐像が出土し、これを浅草浅草寺に奉納、身代わり観音を祈願して頂いた。「観音温泉」の名称はこれらの出来事に由来する。

戦後の経済発展に寄与 観音様の導きで温泉を掘削

昭和25年、戦後間もない日本に経済の礎を築き上げ、東京の四大タクシーとして名を馳せた滝野川自動車株式会社。現在は埼玉とだ自動車学校、群馬につた自動車教習所を営む一方、日本有数の温泉地、伊豆の中で特徴ある泉質で知られる「観音温泉」を有することでも知られている。同社を語るうえで欠かせないのは、経営者と女将の顔を併せ持つ、代表取締役鈴木和江氏の存在だ。父であり創業者の小林運正氏の後を継ぐ鈴木氏は、屈託のない笑顔と飾らない人柄で会う者を魅了する。リピート率が高く訪れた者を虜にする噂の観音温泉の魅力と、活力溢れる名物女将の心意気に迫った。

特質な源泉が魅力 伊豆の名湯「観音温泉」

静岡県の伊豆、奥下田の山中へと続く一本道を抜けたその先に、人里離れた奥の院「飲泉・自家源泉かけ流しの秘湯観音温泉」はある。掘削時に出土した観音像に由来し名付けられた名称は、秘湯と呼ぶに相応しい神秘を感じさせる。

観音温泉の源泉は、pH9・5という強アルカリ性でありながら超軟水。これは世界的にも珍しい泉質で、その質の高さは「伊豆で一番」との呼び声も高く、

癒しを求め訪れる観光客が後を絶たない。湯量も豊富な三つの源泉を有し、すべての風呂が源泉かけ流し。女性にも嬉しい美肌の湯が評判だ。さらに飲泉もできる。その施設は、合掌造りの大総檜風呂をはじめ、星空の美しさに息を呑む満天露天風呂など、11の入浴施設を巡ることができ「観音乃湯 ガラティア」。日帰り温泉、貸切風呂としても利用できる「観音プリンシプル」。創業時の源泉が息づく「ひょうたん風呂」、「乙女風呂」。それぞれの施設で宿泊、日帰りのどちらでも、奇跡の湯を心行くまで堪能できる。

温泉はもちろん、宿泊施設や食事のひとつひとつにも、おもてなしの心が光る。宿泊者は、趣の異なる四つの館から好みに合う客室を選ぶ。観音温泉が産声をあげた地、創業者の思いが息づく始まりの館「離れ 産土亭」。源泉かけ流しの満天檜風呂が魅力、三世代が同じ空間を共有できると好評の「本館」。女将自らがデザインし、全6室すべての様相が異なる「正運館」。ギリシャ神話の伝説になぞらえ名付けられ、全室源泉かけ流しの露天風呂付きという贅を尽くした新館「ピグマリオン」。多種多様な部屋の数々に、何度も訪れたくなる理由も頷ける。

朝夕の食事には、四季折々で変わる伊豆の新鮮な海の幸・山の幸が食卓を彩る。すべての料理に観音温泉の源泉が使われており、中でも源泉で炊く名物の釜飯は絶品だという。予約をすれば昼食も食べ

平成30年度 第2回「チーム新・湯治」セミナー

温泉地を『リフレッシュできる環境』に再生する 開催概要

温泉地に滞在することを通じて心身ともにリフレッシュし元気になってもらうためには、温泉資源のみならず、温泉街をはじめとした周辺の環境を上手く活用していくことが重要です。

本セミナーでは、自然、歴史・文化、食など活かした多様なプログラムの提供や地域の人々とのふれあいの舞台となる温泉地を、今後どのように『リフレッシュできる環境』に再生して“新たな過ごし方”を提供していくかをチーム員の皆さんと一緒に考えます。

●日時 : 平成31年1月25日(金) 13:30～16:30

●場所 : 日本交通公社ビル 地下1階

●プログラム : 1. 開会挨拶 (13:30～)

2. 講師紹介

3. 『リフレッシュできる環境』への再生に向けた温泉地の動き

4. 温泉地における取り組み～環境と財源の視点から

【民間の視点から】(14:00～)

事例 1. 東山温泉での3旅館一体同時再生と環境に関する取り組み

〔講師 株式会社くつろぎ宿^{じゅく} 代表取締役社長 深田智之^{ふかだともゆき}様〕

東山温泉(福島県会津若松市)では、旅館単体ではなく、3つの旅館を統合することによって経営資源を集中し一体再生を図る(株式会社くつろぎ宿)とともに、温泉街の「面」として魅力を創出し活性化を図ってきた。平成30年には、会津若松市、東山温泉観光協会と3者協定を結び、倒壊の危険のある休業旅館(川を挟んだ向かい側に位置)の解体・撤去費用を負担。

【行政の視点から】(15:00～)

事例 2. 阿寒湖温泉における滞在環境づくりと財源確保に関する取り組み

〔講師 釧路市産業振興部阿寒観光振興課 課長 秋葉薫^{あきばかおる}様〕

阿寒湖温泉(北海道釧路市)では、『阿寒湖再生2010プラン』、『阿寒湖温泉創生計画2020』を策定し、滞在環境づくりに計画的に取り組むとともに、財源確保の仕組みの検討も行なってきた。釧路市では、平成25年に地域から市へ提出された要望書を受け、検討・協議、条例の改正等を行い、平成27年4月1日より入湯税の超過課税を導入(標準税率250円)。入湯税引き上げ分を基金として積み立て「国際観光地整備事業」、「おもてなし事業」を実施中。

5. 意見交換 (15:48～)

6. 閉会挨拶 (～16:30)

●備考 : 終了後には、同会場で交流会(16:50～18:00)を開催します。

また、会場ビル1階および地下1階には、チーム員の方の活動を紹介するスペースを設置しています。是非ご覧ください。

講師プロフィール

株式会社くつろぎ宿^{じゆく} 代表取締役社長 深田^{ふかだ} 智之^{ともゆき} 様

1964 年、東京都生まれ。住信基礎研究所(現：三井住友トラスト基礎研究所)、第一勧業銀行(現：みずほ銀行)、第一勧銀総合研究所(現：みずほ総合研究所)にて調査・研究業務に従事。2001 年、(株)リゾート・コンベンション企画を起業。開業以来赤字だった大規模年金保養基地「グリーンピア土佐横浪(高知県須崎市)」の運営を受託し、2 年で黒字化に成功。2005 年より、福島県会津若松市の東山温泉にて 3 軒の旅館の同時一体再生に取り組み、3 年で再生完了。2012 年より秋田県鹿角市の湯瀬ホテルの経営再建を引きうなど、全国の集客施設の再生に従事。株式会社くつろぎ宿の代表取締役社長を務める。

釧路市産業振興部阿寒観光振興課 課長 秋葉^{あきば} 薫^{かおる} 様

1967 年、釧路市生まれ。2005 年より観光振興課(現在の「阿寒観光振興課」)勤務より現在まで阿寒湖温泉の観光振興とまちづくり業務に従事中。2006-07 年には N P O 法人阿寒観光協会まちづくり推進機構への研修派遣を経験し、2010 年より現在まで「水のカムイ観光圏協議会(釧路市と弟子屈町の官民 35 団体で構成)」事務局、2014-15 年「阿寒摩周国立公園広域観光協議会(阿寒摩周国立公園構成 11 自治体と観光協会で構成)」事務局など広域観光も経験。

配布資料(8 点)

1. 本プログラム
2. 「チーム新・湯治」チーム員名簿(簡易版)及び第 2 回「チーム新・湯治」セミナー参加者一覧
3. 『リフレッシュできる環境』への再生に向けた温泉地の動き[運営事務局 資料]
4. 東山温泉での 3 旅館一体同時再生と環境に関する取り組み[深田様 資料]
5. 阿寒湖温泉における滞在環境づくりと財源確保に関する取り組み[秋葉様 資料]
6. 第 3 回「チーム新・湯治」セミナー案内
7. 新・湯治セミナー及び第 1 回「チーム新・湯治」セミナー開催結果概要
8. アンケート

「チーム 新・湯治」運営事務局【環境省温泉地保護利用推進室】

(平成 30 年度運営委託事業者：公益財団法人日本交通公社 チーム新・湯治係[後藤・門脇・吉澤・安谷])

〒107-0062 東京都港区南青山 2-7-29 日本交通公社ビル

TEL : 03-5770-8440 FAX : 03-5770-8359 E-mail : shintoji@jtb.or.jp [運営事務局]

shintoji-seminar@jtb.or.jp [セミナー申込]